

回 成人陰嚢水腫(精索水腫・精巣水腫)に 対する漢方の効果

東邦大学泌尿器科学講座

鈴木 九里、星野 織江、川島 れい美、稲毛 達朗
安 基之、田中 裕貴、伊藤 友梨香、中島 陽太
青木 洋、田村 公嗣、笠原 瑞希、山辺 史人
小林 秀行、永尾 光一、中島 耕一

【はじめに】

陰嚢水腫(精巣水腫・精索水腫)は泌尿器科外来診療の中でもよく遭遇する疾患の一つである。精巣水腫とは精巣を包み保護する漿膜(精巣鞘膜)と精巣との間に液体が貯留したものであり、精索水腫とは鼠径部精巣鞘膜に液体が貯留したものである。本症と鑑別すべき疾患に精液瘤がある。精液瘤とは精巣から精子を運ぶ精管に閉塞が起こり、同部で精子が鬱滞、嚢状に拡張したものである。鑑別は穿刺液中の精子の有無で、有で精液瘤、無で精巣水腫・精索水腫である。治療は根治手術が基本である。今回、五苓散の投与を試み、その効果について検討したので報告する。

【症例】

症例1は75歳男性。右鼠径部腫大に気づき、外科受診、精索水腫疑いで泌尿器科に紹介された。穿刺液に精子なく精索水腫であった。五苓散7.5g投与、3か月後に水腫は消失した。五苓散5gに減量したところ、1年目に水腫が再発した。再度7.5gへ増量したところ、水腫は消失した。

症例2は54歳男性。左陰嚢腫大で受診、穿刺液中に精子を認めず、左精巣水腫と診断した。左精巣水腫根治術を行ったが、術後1か月後に再発。五苓散7.5gを投与、水腫消失したが、五苓散5gに減量したところ、精巣水腫再発。再び7.5gに増量したところ、消失した。

症例3は60歳男性。両側精巣水腫で穿刺を繰り返していた。穿刺内容液は両側黄色透明で、右の穿刺液に精子なく左に精子を認め、右精巣水腫、左精液瘤が疑われた。五苓散7.5gを投与したところ、右に変化はなかったが、左は増悪した。両側とも根治術を行った。手術所見から左は精管・精巣上体からの瘤の発生を認めず、精巣鞘膜と精巣の間に液体が貯留していたため、左精巣水腫と診断した。

【考察】

五苓散は水毒に効果があり、浮腫が適応疾患である。今回、五苓散投与により精巣水腫・精索水腫に一定の効果は認められたが、精子有の精巣水腫に対しては期待した効果は得られなかった。精巣水腫の原因は精巣鞘膜内での漿液産生と吸収のインバランスのためと説明されている。一方、精子有の精巣水腫は何らかの原因による精管の閉塞を伴っているとも考えられる。五苓散が陰嚢水腫において有効だったのは、水腫内の水のインバランスの補正によると推察される。

【考察】

五苓散は精巣・精索水腫に対しては一定の効果が期待できるが、陰嚢内容液に精子がある場合、効果は期待できない。未だ症例数が少ないが、今後症例を集積して検討を加えたい。